

令和5年度 八幡東区リハビリテーション連絡協議会 活動報告書

項目	内容	備考
組織構成	会長：山内 康太（所属：製鉄記念八幡病院） 副会長：西川 浩（所属：山王デイサービス） 運営委員：14名	
活動方針（テーマ）	地域貢献を中心としたリハ啓発	
年度目標	・リハマップ作成によるリハ専門職所属施設の把握とリハビリ提供施設の見える化 ・言語聴覚士の地域活動参画によるリハニーズの把握と地域支援者との連携	
活動実績	① 運営会議（3回） ② 運営委員との打ち合わせ（6回） ③他機関（他部署）が主催する委員会や委員が出席した会議（回）	会議名：
	④研修会（2回）	●職種：リハ職・ケアマネ 内容：多職種連携強化 場所：レインボープラザ 開催日時：R5.10.16 開催方法：対面 参加者数：38名
		●職種：リハ専門職・ケアマネ 内容：もしばなゲーム™の体験及び講義 場所：レインボープラザ 開催日時：R6.3.12 開催方法：対面 参加者数：26名
	⑤交流会（1回）	●職種：リハ職・ケアマネ 内容：多職種連携強化 場所：レインボープラザ 開催日時：R5.10.16 開催方法：対面 参加者数：38名
	⑥講師、委員派遣（2回）	内容：講師派遣 派遣先：八幡東区大谷市民センター、枝光北市民センター 日時：R5.11.29 対象者数：12名 (2施設とも)
	⑦作成物	内容：リハマップ 配布先：運営委員所属施設及びケアマネジャー 作成部数： 媒体：紙（A3）
	活動成果	①八幡東区リハマップ ・21施設から回答があり、リハ専門職の所属を把握することができた ②言語聴覚士の地域活動 ・言語聴覚士が市民センター館長会議に参加し、職域紹介や強みを地域へ発信した ・ST分野に係る地域ニーズの把握することができた ③ 定例会 ・症例を通し、多職種連携の在り方について検討し、顔の見える繋がり強化した ・名刺交換会をとおして他事業所の状況の把握と自事業所の取り組みの振り返ることができた
次年度の課題	○地域課題の抽出と整理 ○地域課題に応えるためのリハ職の体制づくり ○各職種の強みを生かした地域へのアプローチ	

八幡東区リハビリテーション連絡協議会 企画運営委員名簿

	現行	氏名	所属	職種
1	会長	山内 康太	製鉄記念八幡病院	理学療法士
2	副会長	西川 浩	山王デイサービス	作業療法士
3		池田 佐知子	ケアプランサービスセンター 八幡東	主任介護支援専門員
4		大藪 久典	製鉄記念八幡病院	言語聴覚士
5		岡本 みゆき	アクティブ応援館 かめsun	看護職員・機能訓練指導員
6		賀屋 邦彦	ふらて会 西野病院	理学療法士
7		小林 章悟	デイサービス ファイン	作業療法士
8		須崎 省二	北九州市立八幡病院	理学療法士
9		高木 邦男	北九州市立八幡病院	作業療法士
10		中村 麗子	田原整形外科デイサービス センターたはら	介護支援専門員・ 介護福祉士
11		日野 敏明	済生会くれたけ荘	理学療法士
12		福島 大介	北九州八幡東病院	言語聴覚士
13		前田 武志	北九州訪問クリニックたんぼぼ	理学療法士
14		牧 尚弥	正寿園デイケアセンター	理学療法士
15		山田 宏明	訪問看護ステーションひまわり	言語聴覚士
16		吉川 夕佳	北九州八幡東病院	作業療法士
17	八幡東区 保健福祉課	宮崎 木綿子	八幡東区役所 高齢者・障害者相談係	事務職・相談係長
18		有馬 美加子	八幡東区統括支援センター	主任介護支援専門員
19		新谷 瑞	八幡東区役所 高齢者・障害者相談係	作業療法士
20	地域リハビリ テーション推進課	佐藤 美香	地域リハビリテーション推進課	作業療法士
21		金澤 紀子	地域リハビリテーション推進課	理学療法士

※副会長以下五十音順

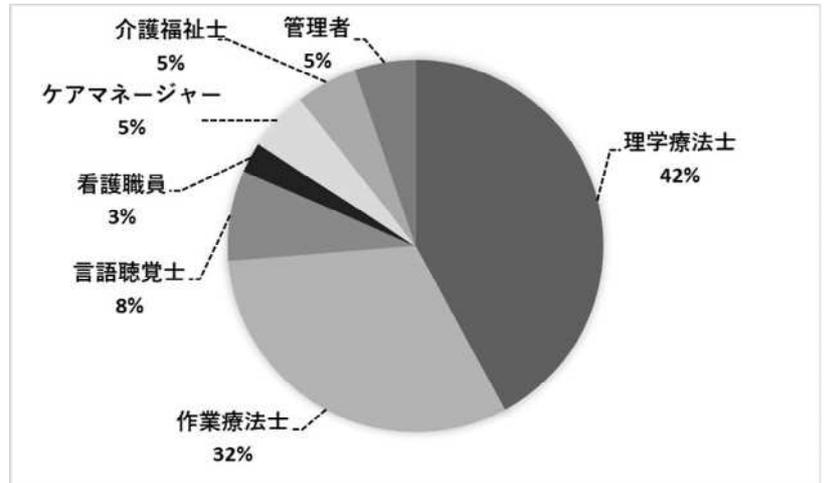
令和5年度 八幡東区リハビリテーション連絡協議会 定例会 まとめ

令和5年10月16日(月) 18:30~20:00

場所：レインボープラザ(中ホール)

1. 参加者

職種	人数
理学療法士	16
作業療法士	12
言語聴覚士	3
看護職員	1
ケアマネージャー	2
介護福祉士	2
管理者	2
合計	38



※事務局他地域リハ課・区職員含まず

2. 当日スケジュール及び役割

タイムスケジュール	
18:30	開会挨拶 (山岡課長)
19:35	症例検討
19:55	質疑応答
19:05	グループワーク
19:35	名刺交換会
19:50	発表者挨拶
19:55	閉会挨拶 (山内会長)
20:05	終了

◎配布物：参加者名簿・タイムテーブル表・グループワーク討論企画書・症例情報(3施設分)・アンケート

3. 症例検討

【テーマ】『あなたなら何ができるか考えてみよう～各期・職種からの連携のポイント～』

【発表者】

- ・アクティブ応援かめ sun 岡本 みゆき氏
- ・医療法人ふらて会西野病院 久保 由希穂氏
- ・社会医療法人製鉄記念八幡病院 野口 祐貴氏

【症例発表】

症例：脳梗塞、大腿骨転子部骨折術後の80代女性（急性期から生活期まで）
八幡東区内で急性期から生活期まで連携できた症例を提示。
今回は生活期である、かめsunから発表してもらい、現在の状態を知ってもらった上で回復期・急性期まで遡り、トップダウンでADL支援や情報提供のあり方を検討する形とした。

【質疑応答】

質問①：血糖値が高いと骨脆弱性が高まるが、リハビリの中で血糖コントロールと疼痛を考慮して、取り組んでいたことはあるか。

回答（製鉄記念病院 野口氏）：特別には無いが、術後は疼痛により負荷をかけにくい部分があるため、疼痛コントロールを考慮しながら介入をしていた。

質問②：回復期でせん妄が出ていたとのことであったが、急性期ではどうだったのか。

回答（製鉄記念病院 野口氏）：急性期では出現していなかった。

質問③：回復期では頻出するのか、対応策などはあるのかお聞きしたい。

回答（西野病院 久保氏）：頻出はせず、今回は珍しい症例だった。せん妄は認知症とも間違われやすく診断しにくい部分がある。環境変化によって出現する場合があります、要因探索が重要。

4. グループワーク

【開催手順】 事前に決めていたリーダーにより、進行して頂き自己紹介と意見交換実施。討論内容は下記議題を盛り込んだ企画書を参考に実施。所要時間：30分。今回は活発な意見交換を促すため、発表は無し。名刺交換会にて意見交換実施。

【討論内容】

- ① 食事自立に向けた支援
- ② 排泄自立に向けた支援
- ③ 高次脳機能障害のある方への移動支援

5. 名刺交換会

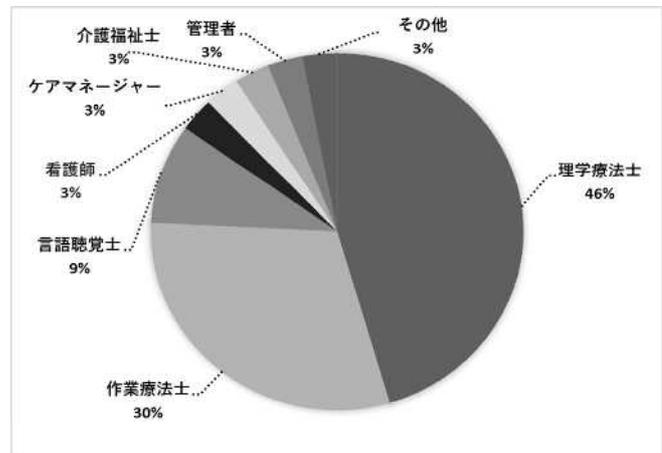
【開催手順】 まずはグループ内で名刺交換を行い、その後はフリーにて会場内移動。所要時間は15分。

アンケート結果

全体回答率：34/38人（89%）

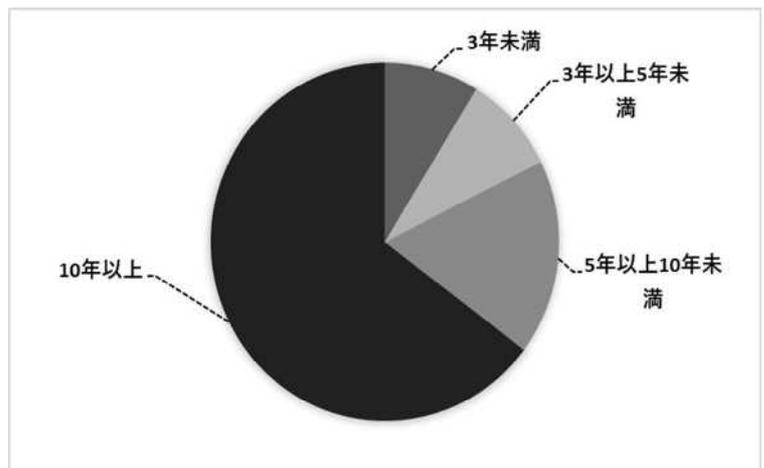
1. 職種

	人数
理学療法士	15
作業療法士	10
言語聴覚士	3
看護師	1
ケアマネージャー	1
介護福祉士	1
管理者	1
その他	1
合計	34



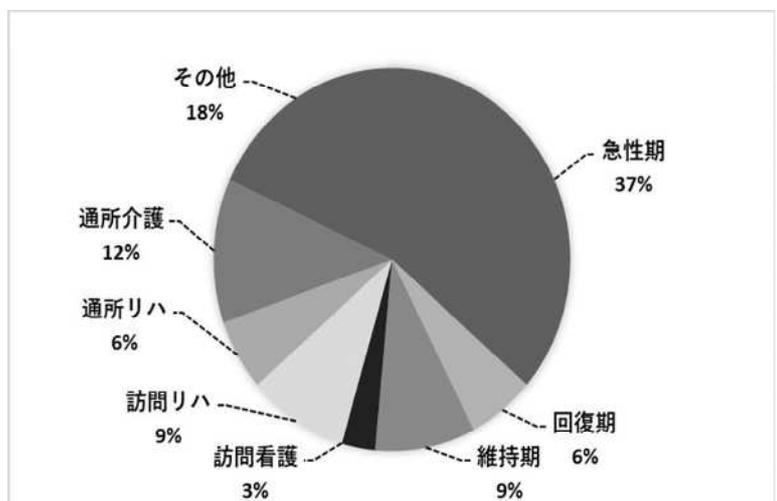
2. 経験年数

	人数
3年未満	3
3年以上5年未満	3
5年以上10年未満	6
10年以上	22
合計	34



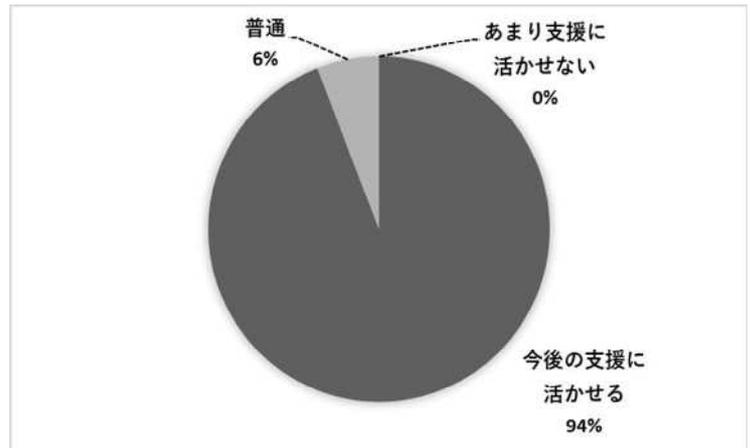
3. 主な勤務先 (33/38人 回答率：86%)

	人数
急性期	12
回復期	2
維持期	3
訪問看護	1
訪問リハ	3
通所リハ	2
通所介護	4
その他	6
合計	33



4. 研修の感想

	人数
今後の支援に活かせる	32
普通	2
あまり支援に活かさない	0
合計	34

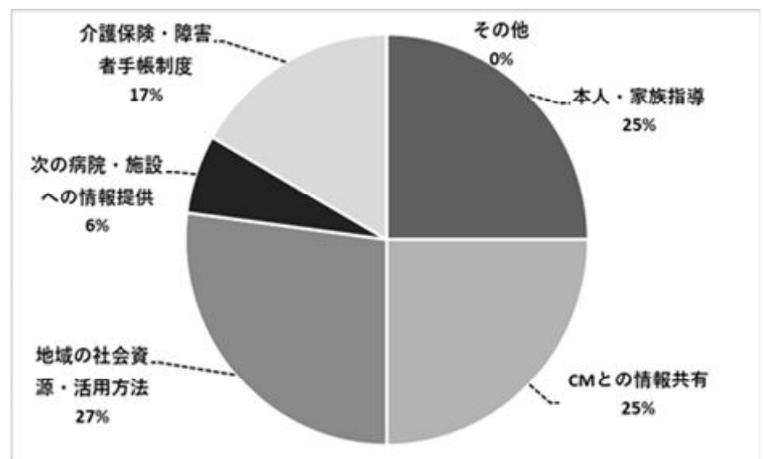


【感想】

- ・ 長期的なリハビリを考える良い機会になった
- ・ 病期別のご意見を伺うことができて良かった
- ・ 急性期やCMさんの意見が聞けてありがたい
- ・ 他病棟でのリハが行っていることや何を考えないといけないかなど知れて良かった
- ・ 病期の異なる他職種の意見は非常に参考となった
- ・ 具体的な評価が経過を追いアプローチに繋がることを知れた
- ・ 他職、急性期、回復期、維持期での意見交換が出来、有意義な時間となった
- ・ 各期での意見を多々聞くことができたので良かった
- ・ 多職種連携について学ぶ良い機会となった
- ・ 転院後にせん妄になっているケースに対して、生活期の取り組みを知れた
- ・ 自立支援に向けての個々の考え方を知る事ができた
- ・ 各期により苦勞する部分が異なることを知れた
- ・ 話し合いの中で家屋調査の情報を手紙等でほしいと聞いたことが印象的だった
- ・ リハビリの内容、重要性が再確認できた
- ・ リハ職の方と直接お話ができて有意義だった
- ・ 他職種の意見が聞けるのがとても良かった

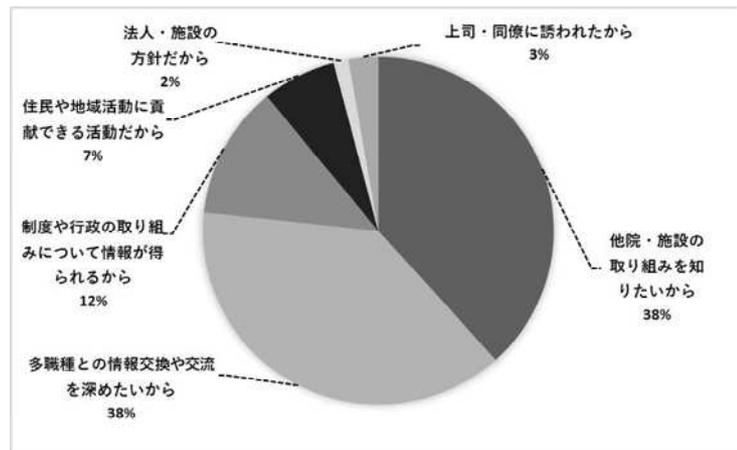
5. 退院支援において職場でどのようなことで悩みますか（複数回答）

	人数
本人・家族指導	12
CMとの情報共有	12
地域の社会資源・活用方法	13
次の病院・施設への情報提供	3
介護保険・障害者手帳制度	8
その他	0
合計	48



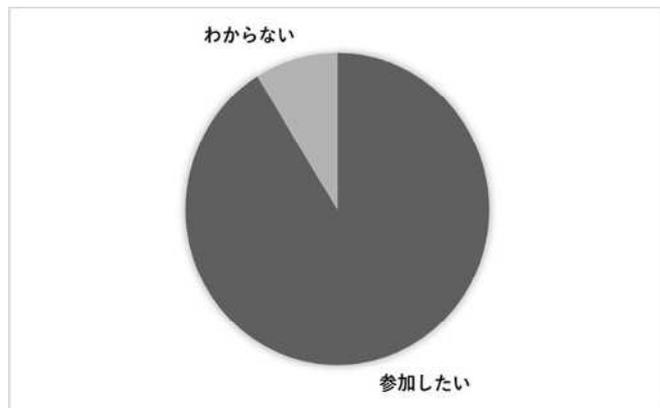
6. リハビリテーション連絡協議会に参加する目的は何ですか（複数回答）

	人数
他院・施設の取り組みを知りたい	28
多職種との情報交換や交流を深めたい	28
制度や行政の取り組みについて情報が得られる	9
住民や地域活動に貢献できる活動	5
法人・施設の方針	1
上司・同僚に誘われた	2
合計	73



7. 今後もこのようなりハビリテーション連絡協議会の活動に参加したいと思いますか。

	人数
参加したい	31
わからない	3
合計	34



8. リハビリテーション連絡協議会でどのような活動を期待しますか？今後の研修テーマや知りたい情報、行ってみたい活動等についてご意見お聞かせください。

【ご意見】

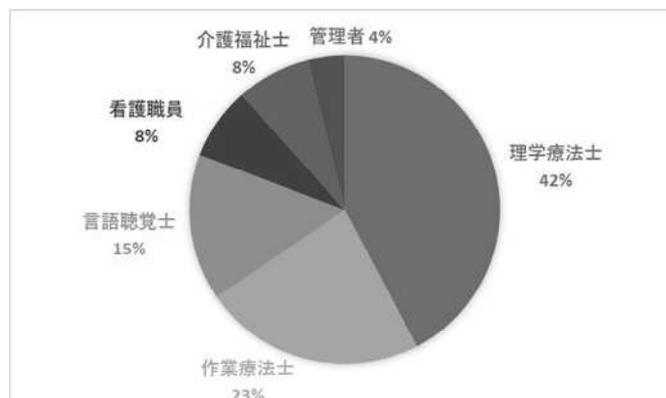
- ・急性期リハスタッフに必要なこと
- ・ADL の項目ごとに色々な施設と話したい
- ・地域の社会資源や活用方法を知りたい
- ・屋外活動へのアプローチ
- ・二次性骨折予防に向けた取り組み
- ・ST も関わった事例について症例検討をしたい
- ・今回のような一症例を通した取り組みなどは続けてほしい
- ・八幡東区における社会資源、サロン等、地域での取り組みを知りたい
- ・難渋した症例検討も行ってみたい
- ・八幡東ならではの地域社会的資源（市民センターや地域包括、リハ、デイなど）用いた症例

令和5年度 八幡東区リハビリテーション連絡協議会 総会・定例会 まとめ

令和6年3月12日(火) 18:30~20:00
場所: レインボープラザ(中ホール)

1. 参加者

職種	人数
理学療法士	11
作業療法士	6
言語聴覚士	4
看護職員	2
介護福祉士	2
管理者	1
合計	26



※事務局他地域リハ課・区職員含まず

2. 当日スケジュール及び役割

開会挨拶: 製鐵記念八幡病院 山内会長

総会司会: 八幡東区役所 保健福祉課 高齢者・障害者相談係 宮崎係長

議長: 済生会訪問看護ステーションひまわり山田宏明氏

タイムスケジュール	
18:30	開会挨拶
18:35	総会
18:45	報告「言語聴覚士の地域活動」
19:00	講義「もしばなゲーム™を体験しよう！」
20:00	終了

◎配布物: 次第・会則・活動報告・活動計画・定例会資料3部・アンケート

3. 総会

- (1) 令和5年度活動報告・・・承認
- (2) 令和6年度活動計画・・・承認
- (3) 役員選出・・・承認

4. 定例会

- (1) 報告『言語聴覚士の地域活動』

発表者: 済生会 訪問看護ステーションひまわり 山田宏明 ST

内容: 参加者は健康な方が多く、予防に重点を置く必要がある。

地域ニーズとしては、アンケート結果より①認知症予防②聞こえ③コミュニケーションの項目が興味関心が高かった。今後は北九州市の事業として活動の拡大を行っていく。

- (2) 講義『もしばなゲーム™を体験しよう!』

発表者: 共愛会 戸畑リハビリテーション病院 久保貴照 PT

講義内容：今後、超高齢に伴い多死社会が訪れる中で患者・家族・治療者で話し合いながら人生の最後について意思決定をすることが重要。このことをACP (Advance Care Planning) といい、「人生会議」と厚生労働省より名称されている。人生会議を通して、自分の価値観を知り、意思決定につなげていくことが重要である。

もしばなゲーム™：4人1組で実施。5枚のカードがひとりひとり配られ、中央に置かれた5枚のカードと比べながら自分が大切だと思うものと交換していく。最後に残ったカード5枚が今の自分が大切にしている価値観のひとつであり、グループメンバーに自分の思いを紹介を行い価値観を共有する。

感想：

【A班】自分の思いがカードにより可視化され、自分自身の考えを振り返ることができた。またほかの人の意見を聞くことで、新たな価値観を得ることができた。

【B班】通所リハに勤務しているが、先日利用者さんから「最後はどこで過ごすのいいかな」と質問を受けた。その時は疾患によるかもしれないという回答をしたが、この講義を受けて、本人の意思決定の重要性がわかり、利用者様への返答も違うものになっていたと思う。今後リハの中でももしばなゲーム™を自事業所で組み込めないか考える機会となった

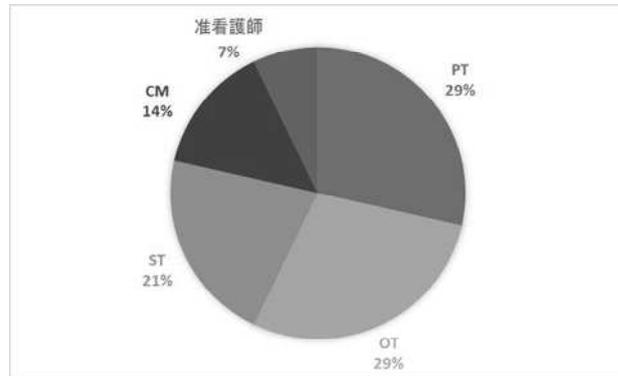
【G班】同じカードでも自分のとらえ方と相手のとらえ方が全く違って、価値観の多様性を学んだ。

アンケート結果

※参加者 36 人中 14 名が回答（回答率 38%）

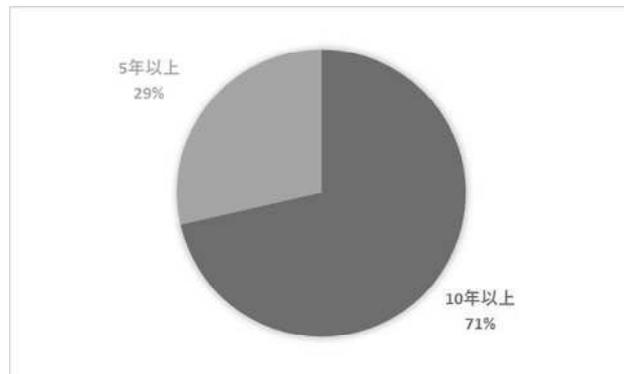
1. あなたの職種を教えてください

PT	4
OT	4
ST	3
CM	2
准看護師	1
合計	14



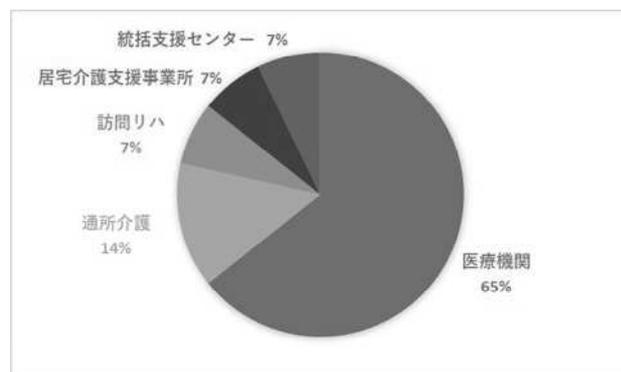
2. 経験年数（資格を取得してから）

10年以上	10
5年以上	4
合計	14



3. あなたの所属分野を教えてください

医療機関	9
通所介護	2
訪問リハ	1
居宅介護支援事業所	1
統括支援センター	1
合計	14



4. 本日の研修はいかがでしたか？

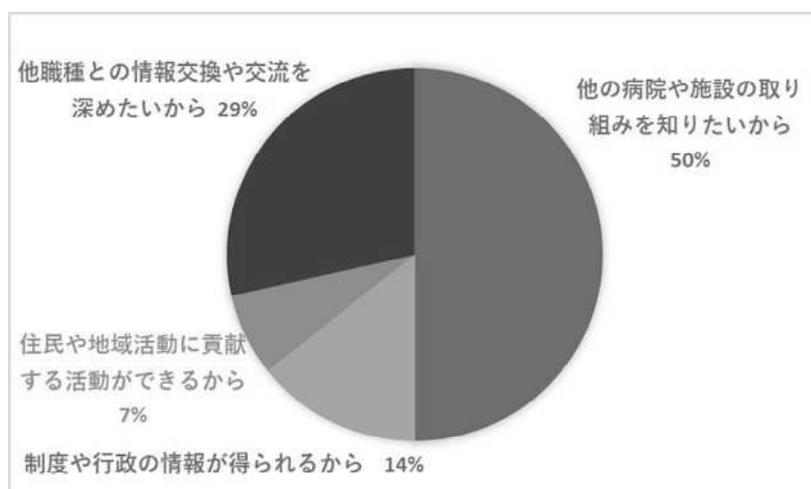
参考になった	14
合計	14

5. 研修会で印象に残ったことや感想などお聞かせください。

- ・初めて知りましたが、もしバナゲーム面白かったです。
- ・様々な価値観があると感じた。
- ・ACP を考えることがありましたが、具体的な方法は知らなかったのととても参考になり自分の思考を整理できました。
- ・もしバナゲームをしてみて色々な価値観を知った。
- ・人生会議やもしバナゲームを通して、今度の事について考えようと改めて思いました。
- ・終末期の患者のリハビリをする事があり、患者の尊厳についてあらためて考えさせられた。
- ・ST の活動を通じて知った企画立案・実行の難しさ、人生会議の重要性を学んだ。
- ・もしバナゲームを通して、今まで考えたことのなかった最期をイメージすることができた。そして、そのとき何を望むかを言語化できて、自分の中の思いを整理できた気がした。
- ・ST さんの地域活動の内容と結果を具体的にきくことができてよかったです。もしバナゲームに参加して自分の大切にしていることがわかりました。

6. リハビリテーション連絡協議会の活動に参加する目的は何ですか？

他の病院や施設の 取り組みを知りたいから	7
制度や行政の情報が 得られるから	2
住民や地域活動に 貢献する活動ができるから	1
他職種との情報交換や 交流を深めたいから	4
合計	14



7. リハビリテーション連絡協議会でどのような活動を期待しますか？今後の研修テーマや知りたい情報、発信したいこと、行ってみたい活動等についてご意見をお聞かせください。

- ・嚥下など
- ・行政と連携した持続的な地域活動
- ・地域活動の促進、ケアマネ等他職種との情報交換

言語聴覚士の地域活動報告

日付 2023年11月29日

場所 八幡東区大谷市民センター（10:00-11:30）、枝光北市民センター（13:30-15:30）

講師 山田宏明（済生会訪問看護ステーションひまわり）

テーマ コミュニケーション障害について-意思伝達が困難になる前に-

参加者 11名+スタッフ数名

内容・反省点

コミュニケーション障害（失語症、構音障害、難聴）の紹介をした。難聴と認知症、嚥下障害についても説明し、人生会議を行うように勧めた。

講演が中心となる内容であった。もう少し体を動かしたりと、講演者の参加型にしても良かった。



講師 大藪久典（製鉄記念八幡病院）

テーマ 聞こえとことばと認知

参加者 11名+スタッフ1名

内容・反省点

難聴と認知症の関係を説明し、補聴器装用を勧めた。脳トレなどの実践も交えて講演した。スクリーンがホワイトボードで代用されていたため、小さくて見え難かった。

